

第 1 回富山県福祉人材確保対策・介護現場革新会議及び
第 1 回介護現場生産性向上ワーキンググループでの委員ご意見

●センターの取組内容全般について

- ・ ワンストップ窓口、相談対応、伴走支援等センターの機能強化
- ・ センターにおける DX・ICT 化に関する知見の蓄積、現場のニーズに即した研修の実施
- ・ 市町村との連携、研修プログラムの構築、各地域への普及・波及、研修の質・量双方の向上
- ・ 現場に出向く出張型研修の拡充（集合型でも伴走支援でもない形の研修）
- ・ 小規模事業所や訪問系サービスを取り残さない取組みの拡充

●テクノロジー機器等の導入状況の把握について

- ・ 機器等の導入状況や関連補助金の活用状況、導入による利用者への影響などを把握し、情報として共有いただきたい。
- ・ 機器の導入状況について、今後の指標として実態を把握するとともに、今後の変動や全国との比較をモニタリングしていく必要がある。事業の効果を図る指標を設定して、目的をもって進めていただきたい。
- ・ 【補足意見】全国老協の調査では、見守り支援ロボットの事業所における普及率は 30%。
R6 新設の「生産性向上推進体制加算」については、未取得：75%、上位区分（Ⅰ）加算取得：4%、
下位区分（Ⅱ）加算取得：21%程度（施設系のみ値）

●研修の実施内容について

- ・ 複数日に渡る研修プログラムは現場としては少々負担が大きい。気軽に参加できる単発的な研修（経営者だけ、主任クラスだけといった対象を絞ったスポット的な研修）など、段階を踏んだプログラム編成があるとよりよい。
- ・ 訪問系の ICT 化については、今一步の状況。訪問系向けの関連研修等があると、多少なりとも現場の不安が減少し、取組みが進みやすくなるのでは。
- ・ 現状、ケアマネと事業所間のやり取りは紙ベースが多いが、居宅介護支援事業者向けの ICT を活用した連携に関する研修機会や関連補助金があるとよい。個々の事業所での取組みだとなかなか進まないの、地域ごとで行う必要がある。

●市町村との連携について

- ・ 取組みのすそ野を広げるためには、市町村を巻き込み積極的に参画してもらう必要がある。
- ・ 市町村担当職員向けに自由参加形式で、先進事業所への見学ツアーを実施するのはどうか。まずは見て体験していただくのがよいと思う。

●取組みの横展開の強化について

- ・ テクノロジーの導入により介護現場の働きやすさが向上しているということを広く世間に PR するための活動を強化すべきではないか